

安中散

組 成 桂皮3.0~5.0、延胡索3.0~4.0、牡蠣3.0~4.0、茴香1.5~2.0、縮砂1.0~2.0、甘草1.0~2.0、良姜0.5~1.0

主 治 裏寒による疼痛

効 能 温中理氣散寒、止嘔、止痛

プロフィール

安中散の原方は『太平惠民和剤局方』に記載されており、それを浅田宗伯が日本人の体質に合わせて改変を加えて『勿誤薬室方函』に記載したものが、現在通行している安中散である。原典には、各生薬末を混じて散剤とし、酒(女性は淡い酢)または塩湯で服用するように指示がある。一般には煎剤に製して服用することが多く、医療用漢方製剤もこれに準じる。中国ではほとんど無名の処方であるが、日本では人気が高く、OTC市場における漢方胃腸薬の基本処方の1つで、いくつかの製品が販売されている。

方解

本方は、桂皮・良姜・茴香・延胡索・縮砂などの温薬を中心に構成されており、裏寒による疼痛を治療する。

桂皮(肉桂)は温裏散寒止痛の作用により裏寒による疼痛を治し、延胡索は理気活血・止痛作用により氣滞血瘀の疼痛を治す。牡蠣は制酸作用のほかに潜歛陽氣の作用により陽氣の發散を防いでいる。縮砂は胃に働き、行氣止痛・開胃止嘔の作用を發揮する。良姜は温胃して胃痛、嘔吐をおさめる。甘草は諸薬を調和する。

四診上の特徴

体格は、慢性に経過した患者では瘦せ型でアトニーベ体质のことが多いといわれるが、これは腹痛、食欲不振の結果生じたとも考えられる。また本方が適する人は、冷え症で性格的には神經質で、精神的ストレスを過剰に受けやすい人が多いといわれている。慢性に経過した時にはこのようなタイプの人が少なくない。

舌は、湿潤しており、舌苔はないか、あっても薄白苔である。長期にわたったものでは瘀点や瘀斑を見ることがある。脈は基本的には沈遲であるが、浮のこともあります、一定しない。しかし、疼痛時以外は虚脈である。腹証は、慢性に経過したものでは軟弱で無力のものがほとんどで

ある。腹壁は薄く、緊張していることもあるが虚状である。腹部動悸を触知するが多く、その部位が疼痛部位と一致することもある。

本方は、寒によって発症し、寒によって悪化する心窓部痛、腹痛、胸やけ、嘔吐、月経痛などに応用される。その診断上のキーポイントは、病態が「裏寒」によって発生したものであるという点を明らかにするところにある。

加減方および合方

利湿健脾の効能を強めたい場合には茯苓を加味する。日本人には特に重要な加味であろう。芍薬を加えると、方中に芍薬甘草湯を含み、柔肝止痛の効が加わる。胃痛が長期にわたるときは扶正を考え、四君子湯や補中益気湯を合方する。肝氣鬱結の症状のみられるものには加味逍遙散や四逆散を合方する。月経痛には、状況に応じて当帰芍薬散や桂枝茯苓丸を合方する。

臨床応用

安中散の適応症は上部消化管の疾患が多いが、その他にも脾炎、さらには月経痛など他の部位の痛みでも、寒に起因するものであれば使用する機会がある。

『漢方診療医典』には、「食前、食後を問わず、臍傍に圧痛のあるものに用いる。また、嘔吐を訴え、すっぱい水を吐くことがある。腹壁は弛緩して栄養が悪く、臍傍で動悸の亢進を認めることがある。食欲が異常に亢進したり、甘味を好むものがある。牡蠣の変わりに代赭石を用いて、頑固な嘔氣胸焼けの止むことがある」とある¹⁾。

■ 上部消化管由来の上腹部痛(急性・慢性胃炎、胃・十二指腸潰瘍など)

本方は、基本的には中寒(中焦の寒)による上腹部の諸症状(心下部痛・嘔吐)を治す方剤である。中寒の原因は、陽氣の虚衰と実邪(瘀血や痰飲)によるものなどである。すでに生じている胃寒そのものに働くのみでなく、その原因をなしている胃陽虛や瘀血に作用すると同時に、全

身の陽気をめぐらせるのを助ける。腹痛は冷たいものの飲食や寒冷の環境などで、体を冷やすことにより増悪することがあり、空腹時もしくは食後1~2時間で生じることが多い。

疾患は、諸家の報告では消化性潰瘍や神経性胃炎などが多い。大宜見は、急性の上部消化管の異常を訴えた患者12例に安中散を使用し、10例(腹痛8例、吃逆1例、胸痛1例)で効果をみたことを報告している²⁾。

■ *Helicobacter pylori*による胃粘膜障害

Helicobacter pylori(H.P.)の除菌を漢方薬で行う試みがなされている³⁾。山崎らはH.P.陽性の胃潰瘍(S期)、慢性胃炎例に対し半量のH₂blockerと複数の漢方処方の併用治療で除菌を試み、その中で安中散は54.5%の有効性があったことを報告している⁴⁾。また、長井は慢性胃炎型のH.P.感染は漢方治療で陰転化する例が多く、潰瘍型の場合はいったん陰転化しても1~2年以内に再度陽性となることがあると報告している⁵⁾。

■ 胃アニサキス症

急性腹痛で来院する胃アニサキス症でも、安中散を使用する機会がある。東京都立衛生研究所の安田らは、安中散の散剤に、アニサキスⅠ型幼虫に対する強い活動抑制効果を認めたことを報告している(エキス製剤では弱い抑制効果であった)^{6,7)}。実際に、内視鏡的にアニサキスの脱落を確認した症例報告⁸⁾もある。

■ 胸やけ

胸やけ・嗳気は胃氣不和により発症するが多く、その原因が中焦虚寒である場合に安中散の適応となる。胸焼けをきたす疾患にはNon Ulcer Dyspepsiaや逆流性食道炎などがあるが、それぞれに安中散の適する症例がある。その他、胃切除後の胸焼けと嗳気、食道裂孔ヘルニアなどの報告が見られる⁹⁾。

■ 慢性脾炎

慢性脾炎も上腹部痛を呈する疾患であり、寒に起因するものは安中散の適応の可能性がある。

中田らは、「慢性脾炎の漢方治療」の中で、慢性脾炎患者62例に対する臨床調査を行い、本疾患に対する漢方治療の有効率は、著効・有効合わせて38.8%であったと述べ、そのうち安中散加茯苓が有効であった例は、4例であ

ったと報告している。そして、それらの症例の特徴は下記のごとくであったという。

「体格は瘦身が多く、主訴は腹痛(中程度~軽度)、腹部膨満感が多かった。随伴症状としては、食欲不振、恶心、心窓部の痞え感、腹鳴、暖气、排ガス等の消化器症状も広範囲に認め、便通異常も認めた(便秘と下痢交替)。肩こりは左右同程度に認め、全例に足冷を認めている。腹状は腹壁が薄く、全例が全体に軟弱な腹状であった。心下痞鞭は半数に認めたが、臍傍に動悸も触知した」¹⁰⁾。

徳留らは、安中散投与により一時期自他覚所見が改善した脾癌の症例を呈示し、一時的な好転は附隨する脾炎の病像を改善したためであろうと推測している¹¹⁾。

■ 月経痛、月経不順、不妊

『和剤局方』に「治婦人血氣刺痛、小腹連腰攻注重痛」と記載され、また『勿誤薬室方函口訣』にも「婦人血氣刺痛には癧囊よりかえって効あり」とあることから、月経痛に応用されている。方中、延胡索は、その活血行氣作用により気滞血瘀による疼痛を治し、桂枝(肉桂)は經脈を温通して止痛し、茴香は寒滯肝脈による下腹痛を治し、良姜は散寒止痛作用により寒凝氣滯による疼痛を治すなど、寒に起因する月経痛に効く構成といえる。

実際の臨床では、当帰芍薬散が胃腸障害を生じる場合や、当帰芍薬散でも痛みが治まらない場合に併用することも多いようである。花輪は、『漢方診療のレッスン』の中で、華奢なタイプの女性の月経痛によいと述べている¹²⁾。月経時頓服でも効果を見た報告もあり¹³⁾、不妊症にも時に使用される¹⁴⁾。

■ その他

胃癌術後の腹痛に安中散が有効な場合があり、岡本は、軽度の残胃炎によると思われる上腹部の不快感がいつの間にか軽減、消失するようであると述べている¹⁵⁾。また、山際は咽喉頭異常感症に本方を用い、有効な例があったと報告がある¹⁶⁾。関口は、間質性膀胱炎に対し、猪苓湯と安中散を併用すると、症状の緩和が見られることが多いと述べている¹⁷⁾。花輪は、神経過敏の不眠症や、胃腸が弱く非ステロイド系抗炎症剤で胃腸をこわしやすいタイプの慢性関節リウマチ、変形性膝関節症、腰痛に適応があることを述べている¹²⁾。

<引用文献>

- 1) 大塚敬節ほか 漢方診療医典 P106, 南山堂 1990.
- 2) 大宜見義雄 日東医誌 46:301, 1995.
- 3) 伊藤 武ほか 生薬・漢方方剤の*Helicobacter pylori*に対する抗菌活性に関する研究、プロジェクト研究報告書「漢方方剤・生薬の品質と生体作用に関する研究」P126, 1997.
- 4) 山崎雅和ほか ヘリコバクターピロリ陽性胃疾患と和漢薬との関連性 日東医誌 49:118, 1998.
- 5) 長井 章 *Helicobacter pylori*に対する漢方治療 日東医誌 47:78, 1996.
- 6) 安田一郎ほか 寄生虫に対する漢方薬の有効性に関する研究(第3報) 東京都立衛生研究所年報 39:24, 1988.
- 7) 村田以和夫ほか 寄生虫に対する漢方薬の有効性に関する研究(第4報) 東京都立衛生研究所年報 40:46, 1989.
- 8) 長井 章 胃アニサキス症の治療経験 第21回東洋医学会九州地方会抄録 P14, 1995.
- 9) 細野完爾 腹部術後症候群の漢方治療概論 現代東洋医学 9:11, 1988.

- 10) 中田敬吾ほか 慢性脾炎の漢方治療 日東医誌 36:25, 1986.
- 11) 徳留一博ほか 安中散投与により一時期自他覚所見が改善した脾癌の一例 漢方の臨床 33:30, 1986.
- 12) 花輪寿彦 漢方治療のレッスン P399, 金原出版 1995.
- 13) 佐々木恵美子 月経痛に対する安中散の効果 日東医誌 5(suppl.): 266, 2004.
- 14) 大塚敬節 漢方診療30年 P36, 創元社 1959.
- 15) 岡本 堃 癌術後の漢方療法~胃癌を中心として、第3回消化器外科漢方研究会抄録 P5.
- 16) 山際幹和ほか 偽薬として用いた安中散による咽喉頭異常感症例の治療成績 耳鼻臨床 76:3041, 1983.
- 17) 関口由紀ほか 女性泌尿器科領域における漢方治療 新薬と臨床 53: 1475, 2004.